

WebFOCUS インストール手順書 for Linux Version 9.2.0

本手順書では、WebFOCUS for Linux および WebFOCUS App Studio Version 9.2.0 の新規または更新インストール・構成のために必要な作業手順を記載しています。

必ずご一読の上、必要なトピックを選択し、手順に従ってインストールを行ってください。

本手順書では、WebFOCUS をインストールするための最低限、かつ日本語環境で推奨される設定手順について説明しており、WebFOCUS のすべての構成内容における手順を網羅、説明するものではありません。WebFOCUS の詳細なインストールと構成手順は、「WebFOCUS インストールガイド for Linux」を参照してください。

WebFOCUS インストールの基本手順

WebFOCUS をインストールする場合、新規インストールと（既にインストール済の以前のバージョンから）更新インストールする 2 通りの手順があります。本手順書では、新規インストールに必要な手順、更新インストールに必要な手順、および新規インストールと更新インストールの両方に必要な手順を章ごとに記載しています。

WebFOCUS を新規インストールするか、または更新インストールをするかを確認の上、下記の該当する章を参照し、インストールを実施してください。新規インストール、または更新インストールを行った後、3 章の「新規/更新インストール共通手順」を行ってください。

1 章： 新規インストール手順

P3~19

-
- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------|
| ■ WebFOCUS Reporting Server の新規インストール | ■ WebFOCUS Client の新規インストール |
| ■ サーバプロセスの起動停止 | ■ 通貨記号と日付の日本語表示設定 |
| ■ JAVA 更新後の設定変更 | ■ Tomcat AJP ポートの有効化 |
| ■ WebFOCUS の Unicode 構成 | ■ ReportCaster の Unicode 構成 |

2 章： 更新インストール手順

P20~26

-
- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------|
| ■ WebFOCUS Reporting Server の更新インストール | ■ WebFOCUS Client の更新インストール |
| ■ 既存データとコンテンツのインデックス化 | |

3 章： 新規/更新インストール共通手順

P27~40

-
- | | |
|------------------------------------|--|
| ■ オンラインヘルプの構成 | ■ Resource Analyzer 日本語パッチの適用と構成 |
| ■ 設定ファイル (edaserve.cfg) の編集 | ■ WebFOCUS App Studio のインストール |
| ■ WebFOCUS App Studio のオンラインヘルプの設定 | ■ WebFOCUS App Studio の出力ビューア Edge の設定 |

1章 新規インストール手順

WebFOCUS Reporting Server と WebFOCUS Client を新規にインストールする場合は以下の手順で実施してください

WebFOCUS Reporting Server の新規インストール

【事前確認】

1. WebFOCUS をインストールするユーザをご準備ください。

※ WebFOCUS のインストールは、root 以外のユーザで実施します。

2. インストールに必要なモジュールを、WebFOCUS をインストールするユーザがアクセスできるディレクトリにコピーします。

例 : /<directory>/tmp/

【WebFOCUS Reporting Server インストールモジュール】

※ サーバの Kernel バージョンに適したモジュールをご利用ください。

※ インストールモジュールのファイル名は、バージョンにより異なる場合があります

- Kernel-3.10 の場合 :

ibi/Server/Kernel-3.10.0/TIB_wf-rs_9.2.*_linux310_x86_64.run

- Kernel-4.18 の場合 :

ibi/Server/Kernel-4.18.0/TIB_wf-rs_9.2.*_linux418_x86_64.run

【WebFOCUS Client インストールモジュール】

ibi/Client/TIB_wf-wf_9.2.*_linux_64.bin

3. Java バージョン 8 または Java バージョン 11 をインストールします。

※ インストールモジュールには、OpenJDK 1.8.0_362 のインストールモジュールが同梱されています。

【Java インストールモジュール】

java/OpenJDK8U-jdk_x64_linux_hotspot_8u362b09.tar.gz

4. 環境変数を設定します。

次の環境変数に、インストールした Java のパスを設定します。

例 : \$ export JAVA_HOME=/<directory>/ibi/java/jdk8u362-b09

```
$ export JDK_HOME=/<directory>/ibi/java/jdk8u362-b09  
$ export PATH=$JAVA_HOME/bin:$JDK_HOME:$PATH:$HOME/bin
```

次の環境変数に、使用する文字セットを設定します。

```
例： $ export LANG=ja_JP.UTF-8 (※UTF-8 の場合)  
$ export LANG=ja_JP.SJIS (※Shift-JIS の場合)
```

5. WebFOCUS のインストールでは、[ulimit] の同時にオープンできるファイル数を 8192 に設定する必要があります。次のように設定します。

```
例： $ ulimit -n 8192
```

【手順】

※ 以下に記載しているメッセージは表示例です。インストール内容や環境により表示が異なることがあります。

※ コマンドで指定しているインストールモジュールのファイル名は、バージョンにより異なる場合があります

以下の手順で WebFOCUS Reporting Server のインストールを行ってください。

1. WebFOCUS をインストールするユーザで Linux 環境にログインします。
2. インストールモジュールをコピーしたディレクトリに移動し、モジュール展開ファイルへの権限を付与します。

```
例： $ cd /<directory>/tmp  
$ chmod 755 TIB_wf-rs_9.2.*_linux310_x86_64.run
```

3. ファイルを展開します。展開後のファイルは新規に作成される temp フォルダに格納されます。

```
例： $ ./TIB_wf-rs_9.2.*_linux310_x86_64.run
```

4. インストールモジュールへの権限を付与します。

```
例： $ chmod 755 inu.out iserver.tar isetup version.cfg
```

5. 保護マスクの設定をします。

```
例： $ umask 022
```

6. インストールファイル「isetup」をフルパスで指定して実行します。

```
例： $ /<directory>/tmp/temp/isetup
```

7. 次のメッセージが表示されますので、「1」を入力し Enter キーを押します。

Select an option:

1. Install and Configure
2. Add Additional Configuration Instance
3. Refresh Installation (Reinstall, Keep Configurations)
4. Install Debuggables to the Installation Directory

-
8. インストールファイルのフルパスを確認し、問題がなければ Enter キーを押します。

Please enter the full path name of the media for the product
(Default=/<directory>/tmp/temp/iserver.tar)
Please supply media or <Enter> :

9. 内部サーバセキュリティプロバイダのサーバ管理者 ID を入力します。

Enter credentials for the server's internal security provider (PTH), the server's default
start up mode.
Enter the Server Administrator ID
(Default=srvadmin) : **admin**

10. 内部サーバセキュリティプロバイダのサーバ管理者パスワードを入力します（パスワードは表示されません）。

Enter the Administrator Password :

11. サーバ環境変数およびポート番号のデフォルト値が表示されます。デフォルト値を使用する場合は「Y」を、使用しない場合は「N」を指定して Enter キーを押します。「N」の場合は、使用する値を指定します。

If you are satisfied with the default settings you may proceed to final confirmation else
you will be prompted for individual values.

Proceed with defaults? (Y/N Default=Y) : **Y/N**

12. インストール情報が表示されます。内容の確認後、問題がなければ「Y」を入力し、Enter キーを押してインストールを開始します。

Please confirm these values with one of the following responses ...

Y = Accept and Proceed

N = Start Over

Q = Quit

Please supply confirmation: **Y**

13. インストールが完了すると次のメッセージが表示されます。

ISETUP: Installation Step completed

14. 以上で WebFOCUS Reporting Server のインストールは完了です。ここではプロセスを起動しないため、「N」を入力し、Enter キーを押します。

Would you like to start the Server Workspace (Y/N Default=Y)? : **N**

以上で WebFOCUS Reporting Server のインストールは終了です。

WebFOCUS Client の新規インストール

【手順】

※ 以下に記載しているメッセージは表示例です。インストール内容により表示が異なることがあります。

※ コマンドで指定しているインストールモジュールのファイル名は、バージョンにより異なる場合があります

以下の手順で WebFOCUS Client をインストールします。

1. WebFOCUS を Reporting Server をインストールしたユーザで Linux 環境にログインします。
2. インストールモジュールをコピーしたディレクトリに移動します。
3. インストールモジュールへの権限を付与します。

例 : `$ chmod 755 TIB_wf-wf_9.2.*_linux_64.bin`

4. インストーラ「TIB_wf-wf_9.2.*_linux_64.bin」を実行します。

例 : `$ ./TIB_wf-wf_9.2.*_linux_64.bin -i console`

5. インストールに関するメッセージが表示されます。Enter キーを押して表示を進めます。

Welcome to WebFOCUS 9.2

InstallAnywhere will guide you through the installation of WebFOCUS 9.2.

It is strongly recommended that you quit all programs before continuing with this installation.

Respond to each prompt to proceed to the next step in the installation. If you want to change something on a previous step, type 'back'.

You may cancel this installation at any time by typing 'quit'.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:

6. ライセンス契約の内容が表示されます。ライセンス契約の最後まで進む場合は「0」を、ライセンス契約の内容を画面上で確認する場合は「0 以外」を入力し、Enter キーを押します。

ENTER VALUE OF '0' AND ENTER TO ADVANCE TO END OR ANY OTHER VALUE AND ENTER

TO CONTINUE TO READ LICENSE AGREEMENT: 0

7. ライセンス契約の同意の確認メッセージが表示されます。同意する場合は「Y」を入力し、Enter キーを押します。

DO YOU ACCEPT THE TERMS OF THIS LICENSE AGREEMENT? (Y/N): Y

8. インストールタイプが表示されます。完全インストールの場合は「2」を入力し、Enter キーを押します。

Choose Install Type

1 - Update

2 - Full Install

Select the type of install that best suits your needs: 2

9. インストールセットが表示されます。標準インストールの場合は「1」、カスタムインストールの場合は「2」を入力して、Enter キーを押します。

Please choose the Install Set to be installed by the installer.

-> 1- Typical

2- Custom

ENTER THE NUMBER FOR THE INSTALL SET, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT

: 1/2

10. WebFOCUS Client のインストールディレクトリを確認し、問題なければ Enter キーを押します。

Please choose a destination folder for this installation.

There should not be any space in the path.

Destination Folder (Default: /<directory>/ibi/WebFOCUS92):

11. インストールするコンポーネントを選択し、必要情報を入力します。

- a. WebFOCUS をインストールするには「Y」を入力し、Enter キーを押します。

Install WebFOCUS (Y/N): Y

- b. アプリケーションディレクトリのデフォルト値が表示されます。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合はディレクトリを指定し Enter キーを押します。

Please choose a destination folder for applications.

(Default: /<directory>/ibi/apps):

- c. メールサーバのホスト名を指定します。

Mail Server Host Name: localhost

- d. ReportCaster Distribution Server を同一マシンにインストールするには「Y」、インストールしない場合は「N」を入力し、Enter キーを押します。

Install ReportCaster Distribution Server (Y/N): Y/N

- e. Tomcat をインストールするには「Y」、インストールを省略するには「N」を入力し、Enter キーを押します。Tomcat をインストールする場合は、インストール先ディレクトリの入力が必要です。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合はディレクトリを指定し Enter キーを押します。

Install and Configure Tomcat (Y/N): Y/N

Tomcat installation folder (Default: /<directory>/ibi/tomcat):

- f. Derby をインストールするには「Y」、既存のデータベースで構成する場合は「N」を入力し、Enter キーを押します。Derby をインストールする場合は、インストール先ディレクトリの入力が必要です。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合はディレクトリを指定し Enter キーを押します。その後、Derby のユーザ ID とパスワードを入力します。

Install Derby (Y/N): Y/N

Derby installation folder (Default: /<directory>/ibi/derby):

- ① Derby のユーザ ID を入力して Enter キーを押します。

User Id: (Default: webfocus):

- ② 続けてパスワードを入力し、Enter キーを押します。(値は表示されません)

Password <DEFAULT: *****>:

- g. 既存のデータベースで構成する場合は、サポートされているデータベースのリストが表示されます。使用するデータベースの番号を指定し Enter キーを押します。

1 - Apache Derby

2 - Db2

3 - MYSQL

4 - Microsoft SQL Server

5 - Oracle

6 - Other DB

- h. WebFOCUS リポジトリを構成するには「Y」、構成しない場合は「N」を入力し、Enter キーを押します。

Do you want to create WebFOCUS Repository (Will not drop existing tables)

(Y/N): Y/N

- i. WebFOCUS 管理者 ID を入力します。

Please enter your WebFOCUS administrator credentials
User name: **admin**

- j. 続けてパスワードを入力し、Enter キーを押します。（値は表示されません）

Password:

- k. g で Oracle を指定した場合、以下の設定のデフォルト値が表示されます。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合は使用する値を指定し Enter キーを押します。

DB Server Node: Oracle Database Server のホスト名または IP アドレス
Port: (Default: 1521): Oracle Database Server のリスナポート番号
User Id: 通信に使用するユーザ ID
Password: ユーザ ID のパスワード
ORASID: Oracle SID
JDBC Driver: (Default: oracle.jdbc.OracleDriver): JDBC Driver
JDBC Path: : jar ファイル名を含めた Oracle JDBC ドライバへの完全修飾パス

12. 手順 9 でカスタムインストールを選択した場合、高度な設定が表示されます（手順 20 まで）。最初にコンテキストルートが表示されます。内容の確認後 Enter キーを押します。

※ 高度な設定パラメータに誤りがある場合は、「BACK」と入力して設定値を再入力します。

Advanced Configuration

WebFOCUS Application Context: (Default: ibi_apps):

13. Reporting Server のホスト名のデフォルト値が表示されます。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合は使用する値を指定し Enter キーを押します。

WebFOCUS Reporting Server Host: (Default: *):

14. Reporting Server のポート番号のデフォルト値が表示されます。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合は使用する値を指定し Enter キーを押します。

WebFOCUS Reporting Server Port: (Default: 8120):

15. Search サーバの Server のポート番号のデフォルト値が表示されます。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合は使用する値を指定し Enter キーを押します。

Search Server Port: (Default: 8983):

16. ReportCaster Distribution Server のホスト名のデフォルト値が表示されます。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合は使用する値を指定し Enter キーを押します。

Distribution Server Host: (Default: *):

17. ReportCaster Distribution Server のポート番号のデフォルト値が表示されます。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合は使用する値を指定し Enter キーを押します。

Distribution Server Port: (Default: 8200):

18. ReportCaster を起動する場合は「Y」を、起動しない場合は「N」を指定し Enter キーを押します。

Start Distribution Server (Y/N): **Y/N**

19. Tomcat をインストールする場合、以下の内容が表示されます。内容の確認後 Enter キーを押します。

Tomcat HTTP Port: (Default: 8080):
Tomcat Server Shutdown Port: (Default: 8005):
Tomcat AJP Port: (Default: 8009):

20. Derby をインストールする場合、以下の内容が表示されます。内容の確認後 Enter キーを押します。

Database Name: (Default: WebFOCUS92):
Port: (Default: 1527):

21. インストール前サマリーが表示されます。内容の確認後 Enter キーを押してインストールを開始します。

Pre-Installation Summary

Please Review the Following Before Continuing:

Product Name:

WebFOCUS92

※この後もメッセージは続きます

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:

22. インストール中は次の画面が表示されます。

Installing...

[=====|=====|=====]
=|=====]

Checking port status of ...

It may take a moment

※この後もメッセージは続きます

23. インストールが完了後、Enter キーを押して終了します。

Installation Complete

Congratulations. WebFOCUS 9.2 has been successfully installed to:

/<directory>/ibi/WebFOCUS92

PRESS <ENTER> TO EXIT THE INSTALLER:

以上で WebFOCUS Client のインストールは終了です。

WebFOCUS Client の新規インストール後、各サーバプロセスが起動します。WebFOCUS の利用を停止、または再度起動する場合は、『サーバプロセスの起動停止』をご参照ください。

サーバプロセスの起動停止

【サーバプロセスの起動】 WebFOCUS を開始するには、サーバプロセスを次の順序で起動する必要があります。

1. Search Server

例 : `$ /<directory>/ibi/WebFOCUS92/Solr/start_solr_linux.sh`

2. リポジトリサーバ

例 : `$ nohup /<directory>/ibi/derby/bin/start.sh &`

3. Application Server

例 : `$ /<directory>/ibi/tomcat/bin/startup.sh`

4. Distribution Server

例 : `$ nohup /<directory>/ibi/WebFOCUS92/ReportCaster/bin/schbkr &`

5. Reporting Server

例 : `$ /<directory>/ibi/srv92/wfs/bin/edastart -start`

【サーバプロセスの停止】 WebFOCUS を停止するには、サーバプロセスを次の順序で停止する必要があります。

1. Search Server

例 : `$ /<directory>/ibi/WebFOCUS92/Solr/stop_solr_linux.sh`

2. Application Server

例 : `$ /<directory>/ibi/tomcat/bin/shutdown.sh`

3. Distribution Server

例 : `$ /<directory>/ibi/WebFOCUS92/ReportCaster/bin/stopit`

4. リポジトリサーバ

例 : `$ /<directory>/ibi/derby/bin/stop.sh`

5. Reporting Server

例 : `$ /<directory>/ibi/srv92/wfs/bin/edastart -stop`

※WebFOCUS9.0.x から WebFOCUS9.2.x へバージョンアップした場合、上記の「srv92」は「srv90」、
「WebFOCUS92」は「WebFOCUS90」に読み替えてください。

【注意事項】

8.2.07 から、WebFOCUS 検索機能として Search Server が追加され、Solr が使用されるようになり、インストール時に自動構成されます。このため、WebFOCUS ご利用時には Search Server (Solr) プロセスの起動が必要となります。

Search Server プロセスの起動時には、プロセスを起動するユーザが同時にオープンできるファイル数、および、実行可能なユーザープロセスの最大数として 65000 が推奨されています。ご利用環境の設定値は、以下のコマンドで確認できます。

例 : `$ ulimit -n` (同時にオープンできるファイル数の確認)
`$ ulimit -u` (実行可能なユーザープロセスの最大数の確認)

この推奨値を満たさない場合、Search Server プロセスの起動時に以下のようなワーニングが出力されます。

例 : `$ /<directory>/ibi/WebFOCUS92/Solr/start_solr_linux.sh` (起動コマンド)

```
*** [WARN] *** Your open file limit is currently 1024.  
It should be set to 65000 to avoid operational disruption.  
If you no longer wish to see this warning, set SOLR_ULIMIT_CHECKS to false in your  
profile or solr.in.sh  
*** [WARN] *** Your Max Processes Limit is currently 4096.  
It should be set to 65000 to avoid operational disruption.  
If you no longer wish to see this warning, set SOLR_ULIMIT_CHECKS to false in your  
profile or solr.in.sh
```

通貨記号と日付の日本語表示設定

通貨記号(円)の設定、日付の日本語表示設定

1. WebFOCUS Reporting Server のプロセスを起動します。

例 : `$ /<directory>/ibi/srv92/wfs/bin/edastart -start`

2. Web コンソールにアクセスします。

ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。

`http://hostname:port/`

説明 :

hostname

WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。

port

インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です。

3. 上部のツールメニューから[ワークスペース]を選択し、画面左に表示される[構成]を展開、[サーバプロファイル - edasprof.prf]を右クリックし、[編集]を選択します。

4. 表示されるプロファイルの編集画面で、以下の 2 行の SET コマンドを指定し、[保存]ボタンをクリックします。

`SET CURRSYMB = JPY`

`SET DATEOUTPUT=LOCALIZED`

補足 :

OS のシステムロケールが日本語に設定されている場合に WebFOCUS Reporting Server のインストール時に[システムロケールを基準に NLS 地域設定を構成]を選択すると以下の設定が自動で設定されます。

`SET LANGUAGE=JAPANESE`

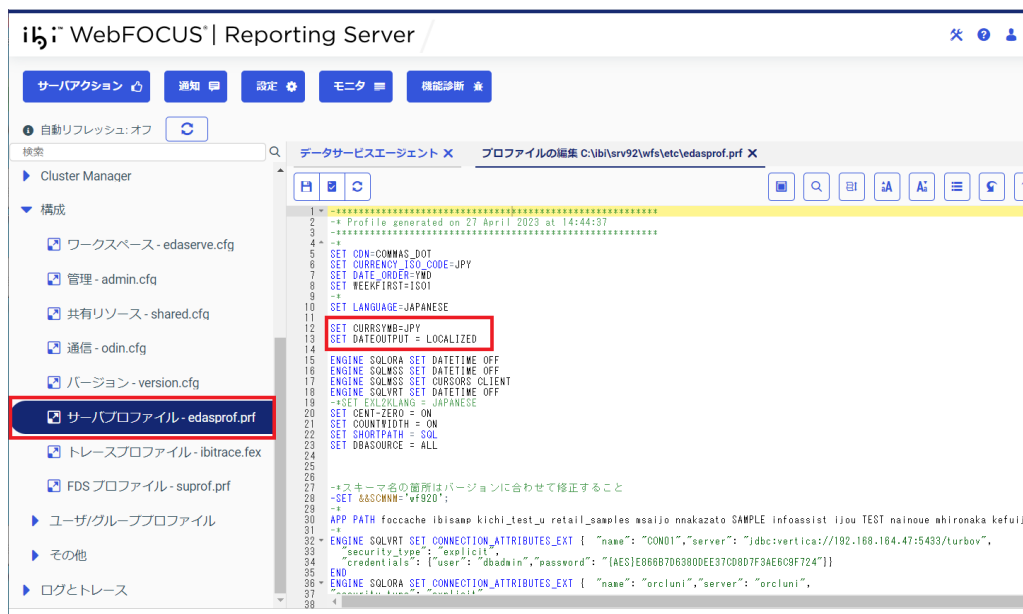
`SET CDN=COMMAS_DOT`

`SET CURRENCY_ISO_CODE=JPY`

`SET DATE_ORDER=YMD`

`SET WEEKFIRST=ISO1`

サーバプロファイル - edasprof.prf に上記の設定が無い場合は、上記の SET コマンドを指定してください。



以上で通貨記号と日付の日本語表示設定は終了です。

Java 更新後の設定変更

【事前確認】

WebFOCUS 新規インストール時に使用している Java を更新する場合、新しい Java のインストール後に、Distribution Server、Tomcat、Derby、Solr の起動停止ファイル、および設定ファイルの変更が必要です。

設定変更をする前に、各サーバプロセスを停止します。停止するプロセスおよびコマンドについては、『サーバプロセスの起動停止』をご参照ください。

【手順】

Distribution Server の起動停止ファイル変更

1. 以下のファイルをエディタで開きます（編集前にバックアップの取得をお勧めします）。

```
/<directory>/ibi/WebFOCUS92/ReportCaster/bin/schbkr
```

2. Java の導入先ディレクトリが記述された箇所を変更します。 ※<directory>は実際の環境に合わせて指定ください。

指定例：

```
"/<directory>/ibi/java/jdk8u362-b09/bin/java"
```

設定を変更後、ファイルを保存して閉じます。

3. 以下のファイルをエディタで開きます（編集前にバックアップの取得をお勧めします）。

```
/<directory>/ibi/WebFOCUS92/ReportCaster/bin/stopit
```

4. Java の導入先ディレクトリが記述された箇所を変更します。 ※<directory>は実際の環境に合わせて指定ください。

指定例：

```
"/<directory>/ibi/java/jdk8u362-b09/bin/java"
```

5. 設定を変更後、ファイルを保存して閉じます。

Tomcat、Derby、Solr の起動停止ファイル変更（Tomcat、Derby はご利用の場合のみ変更）

1. Distribution Server の起動停止ファイルと同様に、Tomcat、Derby、Solr の起動停止ファイルの Java の導入先ディレクトリが記述された箇所を変更し、保存して閉じます（編集前にバックアップの取得をお勧めします）。

Tomcat 起動停止ファイル：

```
/<directory>/ibi/tomcat/bin/startup.sh
```

```
/<directory>/ibi/tomcat/bin/shutdown.sh
```

Derby 起動停止ファイル :

/<directory>/ibi/derby/bin/start.sh

/<directory>/ibi/derby/bin/stop.sh

Solr 起動停止ファイル :

/<directory>/ibi/WebFOCUS92/Solr/start_solr_linux.sh

/<directory>/ibi/WebFOCUS92/Solr/stop_solr_linux.sh

設定ファイルの変更（設定ファイルに Java のパスが存在する場合のみ変更）

1. Distribution Server の起動停止ファイルと同様に、設定ファイルの Java の導入先ディレクトリが記述された箇所があれば変更し、保存して閉じます（編集前にバックアップの取得をお勧めします）。

設定ファイル :

例 : ~/.bash_profile

/<directory>/ibi/srv92/wfs/bin/edaenv.cfg

以上で Java 更新後の設定変更は終了です。

WebFOCUS の利用を再開する場合、各サーバプロセスを開始します。開始するプロセスおよびコマンドについては、『サーバプロセスの起動停止』をご参照ください。

Tomcat AJP ポートの有効化

【事前確認】

Tomcat スタンドアロン構成の場合はこの手順は必要ありません。

WebFOCUS を Apache HTTP Server などの Web サーバ + Tomcat 構成で利用する場合には、Tomcat で AJP Connection ポート（8009）を有効化しておく必要があります。以下の手順に従って設定を進めてください。

Tomcat インストールディレクトリ:

例： /<directory>/ibi/tomcat/

【手順】

1. 以下のファイルをエディタで開きます（編集前にバックアップの取得をお勧めします）。

/<directory>/ibi/tomcat/conf/server.xml

2. AJP Connection ポート（8009）のコメントアウト指定を削除し、有効化します。

Connector protocol="AJP/1.3"の前後の <!-- と --> がコメントアウトの指定です
<!--の行と、-->の行を削除してください

指定例：

```
<Connector protocol="AJP/1.3"
    address="localhost"
    port="8009"
    redirectPort="8443"
    secretRequired="false"
    allowedRequestAttributesPattern=".*"
    maxPostSize="-1" />
```

3. 設定後、ファイルを保存して閉じます。

以上で Tomcat AJP ポートの有効化は終了です。

WebFOCUS の Unicode 構成

【事前確認】

WebFOCUS を SJIS 環境で使用する場合はこの手順は必要ありません。

【手順】

WebFOCUS Reporting Server の CODE_PAGE の変更

1. Web コンソールにアクセスします。

ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。

`http://hostname:port/`

説明：

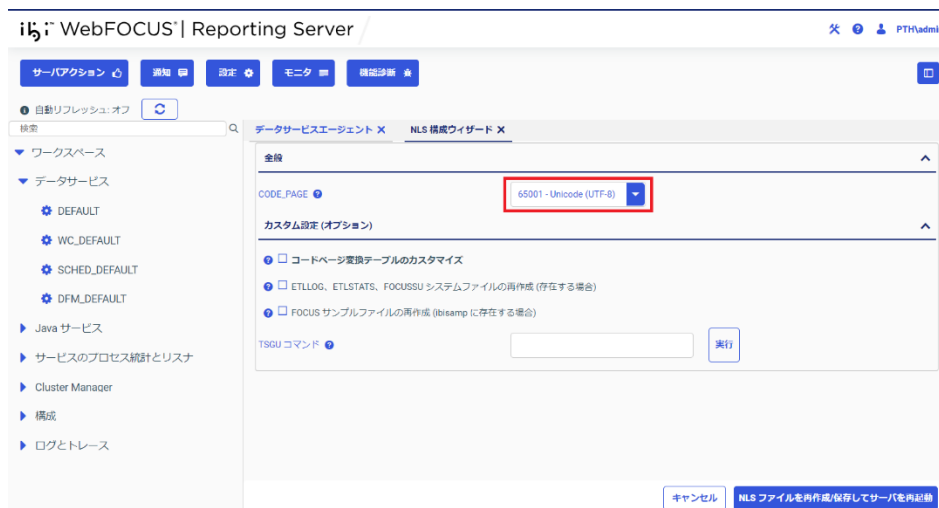
hostname

WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。

port

インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です。

2. 上部のツールメニューから[ワークスペース]を選択し、画面上部の [設定] - [LOCALE] - [構成ウィザード]を選択します。
3. CODE_PAGE ブルダウンリストから[65001-Unicode(UTF-8)]を選択します。
4. [NLS ファイルを再作成/保存してサーバを再起動]をクリックします。



WebFOCUS Client の CODE_PAGE の変更

1. WebFOCUS 管理コンソールにアクセスします。
`http://hostname:port/ibi_apps/admin`

説明：

hostname:port

Web サーバまたは Application Server のホスト名および HTTP ポート番号です。

Tomcat のスタンドアロン構成では、デフォルトは hostname:8080 です。SSL を使用する場合は、「http」の代わりに「https」と入力します。

2. ログイン画面が表示されますので、管理者権限を持つユーザでログインします。
管理コンソールが開きます。
3. メニューから[アプリケーションの設定] - [NLS 設定]を選択します。
4. コードページ[65001-Unicode(UTF-8)]を選択し、[保存]をクリックします。
5. 画面右上の[キャッシュのクリア]をクリックし、[OK]をクリックします。



Tomcat の Unicode 構成

Tomcat のファイルエンコーディングを Unicode にするには、環境変数 LANG を UTF-8 に設定してから、Tomcat を起動してください。具体的には、以下のように環境変数を設定後に、Tomcat を起動します。

例：\$ export LANG=ja_JP.UTF-8

また、ファイルエンコーディングの指定を CATALINA_OPTS から設定する場合は、次のように環境変数をセットします。

例：\$ export CATALINA_OPTS='-Dfile.encoding=UTF-8 -Duser.country=JP -Duser.language=ja'

注意：上記は、WebFOCUS Client と共にインストールされた Tomcat での設定情報です。

以上で WebFOCUS の Unicode 構成は終了です。

ReportCaster の Unicode 構成

【事前確認】

ReportCaster を SJIS 環境で使用する場合はこの手順は必要ありません。

Application Server のプロセスを停止します。

例 : `$ /<directory>/ibi/tomcat/bin/shutdown.sh`

Distribution Server のプロセスを停止します。

例 : `$ /<directory>/ibi/WebFOCUS92/ReportCaster/bin/stopit`

【手順】

Distribution Server の起動ファイルを編集します

1. 以下のファイルをエディタで開きます（編集前にバックアップの取得をお勧めします）。

`/<directory>/ibi/WebFOCUS92/ReportCaster/bin/schbkr`

2. 以下の設定を追加します。

`-Dfile.encoding=UTF-8`

指定例 :

```
#!/bin/sh
./<directory>/ibi/WebFOCUS92/ReportCaster/bin/classpath
"/<directory>/ibi/java/jdk8u362-b9/bin/java" ${MAC_OPTS1} ${MAC_OPTS2}
-Dfile.encoding=UTF-8 -Dreportcaster.home=$DSINSTALL -
Dlog4j.configurationFile=file:$DSINSTALL/cfg/log4j2.xml -Dcaster.service=false -
DDSINSTALL_PROD=$DSINSTALL_PROD ibi.broker.SCHScheduler $DSINSTALL
$CMD_LINE_ARGS
```

※ご利用のメンテナンスリリースにより、schbkr の上記内容は実際の記述と異なる場合があります

3. 設定を追加後、ファイルを保存して閉じます。
4. Application Server（Tomcat 等）のプロセスを起動します。

例 : `$ /<directory>/ibi/tomcat/bin/startup.sh`

5. Distribution Server（schbkr）のプロセスを起動します。

例 : `$ nohup /<directory>/ibi/WebFOCUS92/ReportCaster/bin/schbkr`

以上で ReportCaster の Unicode 構成は終了です。

引き続き「3 章 新規/更新インストール共通手順」を確認し、必要な設定を実施してください。

2章 更新インストール手順

すでにインストール済みの WebFOCUS Reporting Server および WebFOCUS Client を更新インストールする場合は以下の手順を実施してください。

また、WebFOCUS9.1.x 以前のバージョンから更新インストールを行う場合、WebFOCUS のインストールディレクトリ名は更新されません。WebFOCUS の動作上問題はありませんが、WebFOCUS9.2.0 の標準のインストールディレクトリ名でインストールを行いたい場合は、新規インストールを行ってください。

更新前ディレクトリ名の例 : /<directory>/ibi/WebFOCUS90、/<directory>/ibi/srv90

更新インストールを行う前に、障害にそなえて WebFOCUS を構成しているシステムのイメージバックアップ、およびリポジトリ（WebFOCUS Client と Resource Analyzer のリポジトリ）のバックアップをあらかじめ取得してください。万が一、更新インストール処理に失敗した場合、もしくは更新インストール後になんらかの障害が発生した場合は、システムのイメージバックアップから切り戻しを行ってください。

システムのイメージバックアップを取得できない場合は、本番環境とは別の検証用の環境で正常に適用できるか十分な確認を行ってから本番環境に適用することをご検討ください。

バージョン 9.0.0 以降、WebFOCUS のシステムファイル構成に ibi_html ディレクトリ

（/<directory>/ibi/WebFOCUSrelease/WebFOCUS）は含まれません(ここで、release はインストールされた WebFOCUS のリリース番号です)。ibi_html ディレクトリにカスタムスタイルシートファイルまたはその他ファイルが格納されている場合は、WebFOCUS バージョン 9.0.0 以降のインストールまたはアップグレード前に、これらのファイルをこのディレクトリから WebFOCUS リポジトリにアップロードする必要があります。

WebFOCUS Reporting Server の更新インストール

【事前確認】

1. インストールに必要なモジュールを、WebFOCUS インストールユーザがアクセスできるディレクトリにコピーします。

例 : /<directory>/tmp/

【WebFOCUS Reporting Server インストールモジュール】

- ※ サーバの Kernel バージョンに適したモジュールをご利用ください。
- ※ インストールモジュールのファイル名は、バージョンにより異なる場合があります

- Kernel-3.10.0 の場合 :

ibi/Server/Kernel-3.10.0/TIB_wf-rs_9.2.*_linux310_x86_64.run

- Kernel-4.18 の場合 :

ibi/Server/Kernel-4.18.0/TIB_wf-rs_9.2.*_linux418_x86_64.run

【WebFOCUS Client インストールモジュール】

ibi/Client/TIB_wf-wf_9.2.*_linux_64.bin

2. 更新インストールをする前に、WebFOCUS Reporting Server、WebFOCUS Client のインストールディレクトリをご確認ください。

【WebFOCUS Reporting Server インストールディレクトリ】

例： /<directory>/ibi/srv90

【WebFOCUS Client インストールディレクトリ】

例： /<directory>/ibi/WebFOCUS90

3. 更新インストールをする前に、導入時に WebFOCUS をインストールしたユーザをご確認ください。
4. 更新インストールをする前に、リポジトリサーバ以外の各サーバプロセスを停止します。停止するプロセスおよびコマンドについては、『サーバプロセスの起動停止』をご参照ください。

【手順】

※ 以下に記載しているメッセージは表示例です。インストール内容により表示が異なることがあります。

※ コマンドで指定しているインストールモジュールのファイル名は、バージョンにより異なる場合があります

以下の手順で WebFOCUS Reporting Server の更新インストールを行ってください。

1. WebFOCUS をインストールしたユーザで Linux 環境にログインします。
2. インストールモジュールをコピーしたディレクトリに移動し、モジュール展開ファイルへの権限を付与します。

例： `$ cd /<directory>/tmp`

`$ chmod 755 TIB_wf-rs_9.2.*_linux310_x86_64.run`

3. ファイルを展開します。展開後のファイルは新規に作成される temp フォルダに格納されます。

例： `$ ./TIB_wf-rs_9.2.*_linux310_x86_64.run`

4. インストールモジュールへの権限を付与します。

例： `$ chmod 755 inu.out iserver.tar isetup version.cfg`

5. 保護マスクの設定をします。

例： `$ umask 022`

6. インストールファイル「isetup」をフルパスで指定して実行します。

例： `$ /<directory>/tmp/temp/isetup`

7. 次のメッセージが表示されますので、「3」を入力し Enter キーを押します。

Select an option:

1. Install and Configure
2. Add Additional Configuration Instance
- 3. Refresh Installation (Reinstall, Keep Configurations)**
4. Install Debuggables to the Installation Directory

8. インストールファイルのフルパスを確認し、問題がなければ Enter キーを押します。

Please enter the full path name of the media for the product
(Default=/`<directory>`/tmp/temp/iserver.tar)
Please supply media or **<Enter>** :

9. WebFOCUS Reporting Server インストールディレクトリのホームディレクトリを指定します。変更の必要がなければ Enter キーを押します。

Enter the EDAHOME directory where the product was installed
(Default=/`<directory>`/ibi/srv92/home)
Please supply location or **<Enter>**: **/<directory>/ibi/srv90/home**

10. 次のメッセージが表示された場合、「Y」を入力し Enter キーを押します。

Warning: This installation of the ibi WebFOCUS Reporting Server does not include Hyperstage.
If you require an ibi WebFOCUS Reporting Server with Hyperstage,
cancel the installation and contact ibi support at <https://www.ibi.com/contact-us>.
Do you want to proceed ? (Y/N Default=N) : **Y**

11. 次のメッセージが表示された場合、「Y」を入力し Enter キーを押します。

Hyperstage support was removed during the upgrade process.
Would you like to remove any remaining references to Hyperstage from your existing configuration(s) ? (Y/N Default=N) : **Y**

12. 次のメッセージが表示された場合、「C」を入力し Enter キーを押します。

Type the full path to each configuration to be modified and press Enter
or if your list is complete, type C to continue: : **C**

13. 次のメッセージが表示された場合、「Y」を入力し Enter キーを押します。

The following configurations will be modified:
0. /home/webfocus/ibi
1. /home/webfocus/ibi/srv90
Do you also want to delete customer data stored in Hyperstage data directories ? (Y/N Default=N) : **Y**

14. 更新情報が表示されます。内容の確認後、問題がなければ「Y」を入力し、Enter キーを押してインストールを開始します。

Please confirm these values with one of the following responses ...

Y = Accept and Proceed

N = Start Over

Q = Quit

Please supply confirmation: **Y**

15. インストールが完了すると次のメッセージが表示されます。

ISSETUP: Installation Step completed

以上で WebFOCUS Reporting Server の更新インストールは終了です。

WebFOCUS Client の更新インストール

【手順】

※ 以下に記載しているメッセージは表示例です。インストール内容により表示が異なる場合があります。

※ コマンドで指定しているインストールモジュールのファイル名は、バージョンにより異なる場合があります

以下の手順で WebFOCUS Client を更新インストールします。

1. WebFOCUS をインストールしたユーザで Linux 環境にログインします。

2. インストールモジュールをコピーしたディレクトリに移動します。

3. インストールモジュールへの権限を付与します。

例 : `$ chmod 755 TIB_wf-wf_9.2.*_linux_64.bin`

4. インストーラ「TIB_wf-wf_9.2.*_linux_64.bin」を実行します。

例 : `$ ./TIB_wf-wf_9.2.*_linux_64.bin -i console`

5. ライセンス契約に関するメッセージが表示されます。Enter キーを押して表示を進めます。

Welcome to WebFOCUS 9.2

InstallAnywhere will guide you through the installation of WebFOCUS 9.2.
It is strongly recommended that you quit all programs before continuing with
this installation.
Respond to each prompt to proceed to the next step in the installation. If you
want to change something on a previous step, type 'back'.
You may cancel this installation at any time by typing 'quit'.
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:

6. ライセンス契約の内容が表示されます。ライセンス契約の最後まで進む場合は「0」を、ライセンス契約の内容を画面上で確認する場合は「0 以外」を入力し、Enter キーを押します。

ENTER VALUE OF '0' AND ENTER TO ADVANCE TO END OR ANY OTHER VALUE AND
ENTER

TO CONTINUE TO READ LICENSE AGREEMENT: 0

7. ライセンス契約の同意の確認メッセージが表示されます。同意する場合は「Y」を入力し、Enter キーを押します。

DO YOU ACCEPT THE TERMS OF THIS LICENSE AGREEMENT? (Y/N): Y

8. インストールタイプが表示されます。更新インストールの場合は「1」を入力し、Enter キーを押します。

Choose Install Type

1 - Update

2 - Full Install

Select the type of install that best suits your needs: 1

9. WebFOCUS Client のインストールディレクトリを入力し、Enter キーを押します。

Please enter path to existing install you want to update:
/<directory>/ibi/WebFOCUS90

10. WebFOCUS 管理者 ID を入力して Enter キーを押します。

Please enter your WebFOCUS administrator credentials
User name: **admin**

11. 続けてパスワードを入力し、Enter キーを押します。（値は表示されません）

Password:

12. インストール前サマリーが表示されます。内容の確認後 Enter キーを押してインストールを開始します。

Pre-Installation Summary

Please Review the Following Before Continuing:

Install Folder:

 /<directory>/ibi/WebFOCUS90

update from

 **

update to

 9.2.*

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:

13. 更新インストール中は次の画面が表示されます。

Installing...

[=====|=====|=====]
=|=====]

Checking port status of WebFOCUS ReportCaster WF92

It may take a moment

※この後もメッセージは続きます

14. インストールが完了後、Enter キーを押して終了します。

Installation Complete

Congratulations. WebFOCUS 9.2 has been successfully installed to:

 /<directory>/ibi/WebFOCUS90

PRESS <ENTER> TO EXIT THE INSTALLER:

以上で WebFOCUS Client の更新インストールは終了です。

WebFOCUS の利用を開始するには、更新インストール前に停止した各サーバプロセスを起動します。起動するプロセスおよびコマンドについては、『サーバプロセスの起動停止』をご参照ください。

既存データとコンテンツのインデックス化

WebFOCUS 8.2.06 以前からアップグレードした場合、登録されたデータやコンテンツを 9.2.x では検索できません。検索対象とするためには、既存データとコンテンツのインデックス化が必要です。以下の手順に従って設定を進めてください。

1. 各サーバプロセスを起動します。起動するプロセスおよびコマンドについては、『サーバプロセスの起動停止』をご参照ください。
2. WebFOCUS ホームページに管理者でログインし、ワークスペースの画面から管理者ビューに切り替えます。

`http://hostname:port/ibi_apps/`

説明：

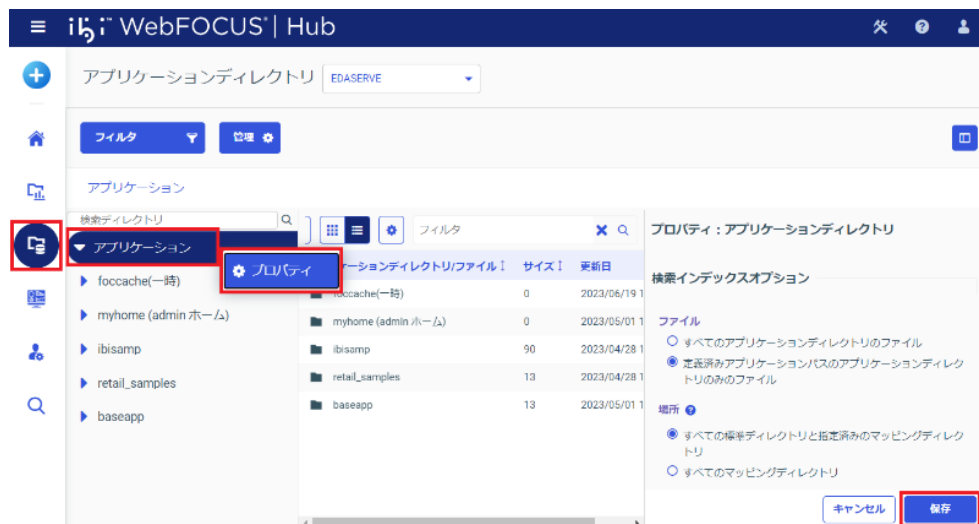
hostname:port

Web サーバまたは Application Server のホスト名および HTTP ポート番号です。

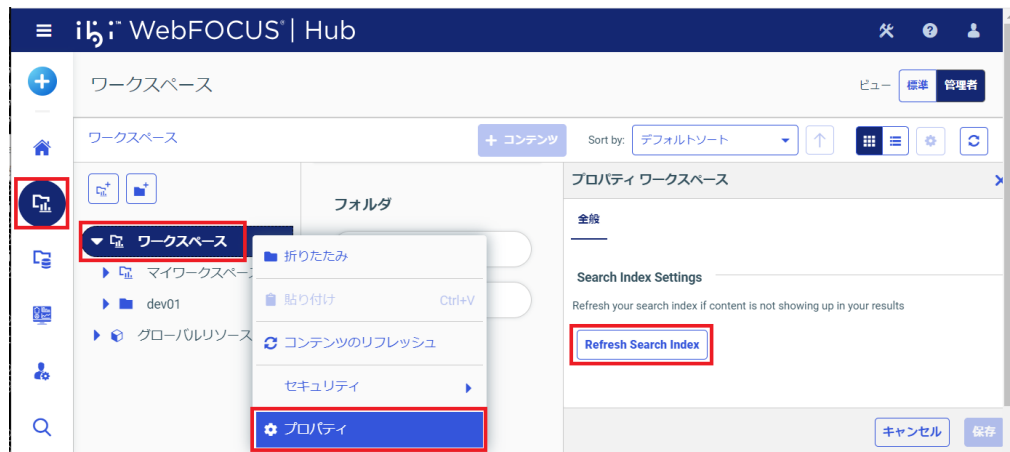
Tomcat のスタンドアロン構成では、デフォルトは hostname:8080 です。SSL を使用する必要がある場合は、「http」の代わりに「https」と入力します。



3. データのインデックス作成を行います。画面左のアプリケーションディレクトリアイコンを選択し、[アプリケーション] の右クリックメニューから [プロパティ] を選択します。表示された [プロパティ：アプリケーションディレクトリ] で検索インデックスオプションを選択し、[保存] をクリックします。



4. コンテンツのインデックス作成を行います。画面左のワークスペースアイコンを選択し、[ワークスペース] の右クリックメニューから [プロパティ] を選択します。表示された [プロパティ ワークスペース] で [Refresh Search Index] をクリックします。



以上で既存データとコンテンツのインデックス化は終了です。

引き続き「3 章 新規/更新インストール共通手順」を確認し、必要な設定を実施してください。

3 章 新規/更新インストール共通手順

新規インストール、または更新インストールを実施後、以下の手順を実施してください。

オンラインヘルプの構成

WebFOCUS 9.2.0 を利用する前に、オンラインヘルプの構成が必要です。更新インストールの場合も実施する必要があります。以下の手順に従って設定を進めてください。

1. オンラインヘルプファイルは WebFOCUS Client をインストールしたディレクトリに適用します。

WebFOCUS Client インストールディレクトリ:

例 : `/<directory>/ibi/WebFOCUS92`

2. Application Server のプロセスを停止します。

例 : `$ /<directory>/ibi/tomcat/bin/shutdown.sh`

3. インストールモジュール内の ibi/Client に同梱されている、オンラインヘルプファイル `ibi_help.war` を `/<directory>/ibi/WebFOCUS92/webapps` 直下にコピーします（ファイルが存在する場合、上書きします）。

4. `/<directory>/ibi/tomcat/conf/Catalina/localhost/ibi_help.xml` をテキストで開きます。

※`ibi_help.xml` が無い場合には新規に作成してください

5. 以下のように設定します。

※`<directory>`は環境に合わせて変更してください

指定例 :

```
<?xml version='1.0' encoding='utf-8'?>
```

```
<Context docBase="/<directory>/ibi/WebFOCUS92/webapps/ibi_help.war"
path="/ibi_help">
```

```
</Context>
```

6. 設定後、ファイルを保存して閉じます。
7. `/<directory>/ibi/tomcat/work/Catalina/localhost` を削除します。
8. Application Server のプロセスを起動します。

例 : `$ /<directory>/ibi/tomcat/bin/startup.sh`

- 9.** WebFOCUS 管理コンソールにアクセスします。

`http://hostname:port/ibi_apps/admin`

説明 :

`hostname:port`

Web サーバまたは Application Server のホスト名および HTTP ポート番号です。

Tomcat のスタンドアロン構成では、デフォルトは `hostname:8080` です。SSL を使用する必要がある場合は、「http」の代わりに「https」と入力します。

- 10.** ログイン画面が表示されますので、管理者権限を持つユーザでログインします。

- 11.** 管理コンソールを開きます。

- 12.** メニューから[アプリケーションの設定] – [アプリケーションコンテキスト]を選択します。

- 13.** [ヘルプ]に「/ibi_help」と入力し、[保存]をクリックします。

- 14.** 画面右上の[キャッシュのクリア]をクリックし、[OK]をクリックします。

- 15.** Application Server のプロセスを再起動します。

以上でオンラインヘルプの構成は終了です。

Resource Analyzer 日本語パッチの適用と構成

【事前確認】

Resource Analyzer を使用しない場合はこの手順は必要ありません。

Resource Analyzer 用の日本語パッチは WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリに適用します。日本語パッチを適用する前に WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリを確認してください。

WebFOCUS Reporting Server インストールディレクトリ:

例 : /<directory>/ibi/srv92

注意 : 日本語パッチを適用する際は、WebFOCUS Reporting Server を必ず停止してください。

【手順】

パッチが含まれるインストールモジュールのディレクトリ

ibi/Server/patch_92s

Resource Analyzer 日本語パッチの適用

1. パッチの適用に必要なファイルを、文字コード環境(SJIS、UTF8)に合わせて、WebFOCUS インストールユーザがアクセスできるディレクトリにコピーします。

例 : /<directory>/tmp/

(SJIS の場合) [ra_sjis.tar](#)

(UTF8 の場合) [ra_utf8.tar](#)

2. WebFOCUS をインストールしたユーザで Linux 環境にログインします。

3. パッチの適用を行うディレクトリに移動します。

例 : \$ cd /<directory>/ibi/srv92

※更新インストールの場合は、以下のディレクトリに移動します。

例 : [\\$ cd /<directory>/ibi/srv92](#)

4. tar ファイルを展開します。

文字コード環境 (SJIS、UTF8) に合致するファイルを展開します。

(SJIS の場合)

例 : \$ tar -xvf /<directory>/tmp/ra_sjis.tar

(UTF8 の場合)

例 : \$ tar -xvf /<directory>/tmp/ra_utf8.tar

Resource Analyzer の構成

注意： WebFOCUS 9.2 では、Resource Analyzer の構成時には、「Resource Governor」と「Resource Analyzer」を選択することができますが、「Resource Analyzer」を選択してください。

1. Web コンソールにアクセスします。

ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。

http://hostname:port/

説明：

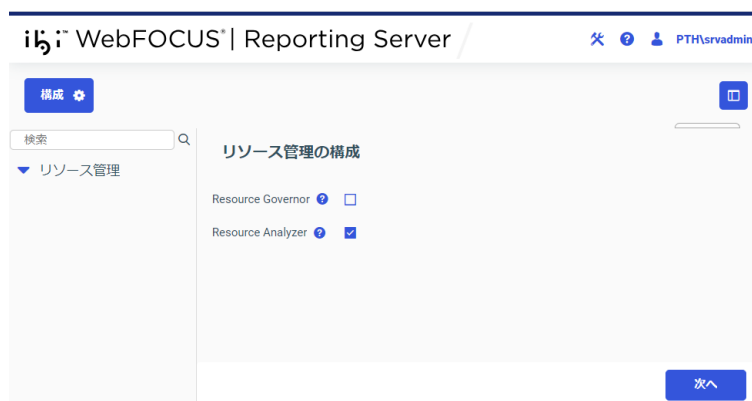
hostname

WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。

port

インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です。

2. 上部のツールメニューから[リソース管理]を選択します。
3. [構成]ボタンをクリックします。
4. 「Resource Governor」と「Resource Analyzer」の選択画面が表示されますので、ラジオボタンで「Resource Analyzer」を選択し、以降の設定を行ってください。



以上で Resource Analyzer 日本語パッチの適用と構成は終了です

設定ファイル (edaserve.cfg) の編集

【事前確認】

Resource Analyzer を使用しない場合はこの手順は必要ありません。

【手順】

1. WebFOCUS Reporting Server のプロセスを起動します。

例 : `$ /<directory>/ibi/srv92/wfs/bin/edastart -start`

2. Web コンソールにアクセスします。

ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。

`http://hostname:port/`

説明 :

hostname

WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。

port

インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です。

3. 上部のツールメニューから[ワークスペース]を選択し、画面左に表示される[構成ファイル]を展開、[ワークスペース - edaserve.cfg]を右クリックし、[表示]を選択します。

4. 表示されるプロファイルの編集画面で、以下のコマンドを指定し、[保存してサーバを再起動]ボタンをクリックします。

`eda_collect_perf=n`

以上で設定ファイル(edaserve.cfg)の編集は終了です。

WebFOCUS App Studio のインストール

【事前確認】

WebFOCUS App Studio を新規、または更新インストールします。ただし、以前のバージョンからの更新インストールはできません。同一メジャーバージョンでのみ更新インストールができます。

更新前のバージョン	更新後のバージョン	更新インストール可否
8.2.06	9.2.0	×
8.2.07	9.2.0	×
9.0.x	9.2.0	○

新規インストールで以前のバージョンをインストールしている場合、該当バージョンのインストールガイドに従ってアンインストールを行ってください。

WebFOCUS App Studio は OS の管理者権限を持つユーザでインストールを実施してください。

WebFOCUS App Studio は下記ディレクトリにインストールします。C ドライブ以外にインストールする場合には、インストール手順中の「インストール先の選択」で、ドライブレター部分を変更してください。

【WebFOCUS AppStudio インストールディレクトリ】

例：C:\ibi¥AppStudio92

以下の手順で WebFOCUS App Studio のインストールを行ってください。

ibi ディレクトリにある [TIB_wf-as_9.2.*_win_x86_64.exe](#) をダブルクリックします。

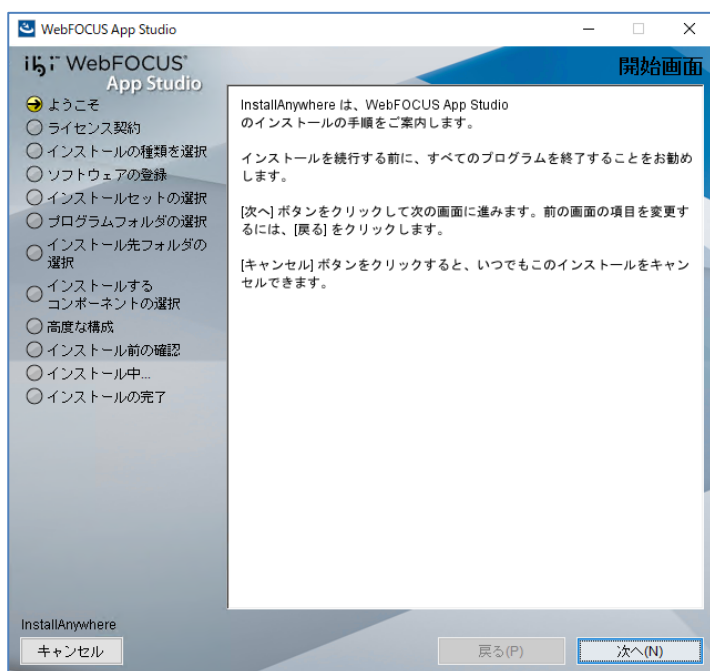
※ インストールモジュールのファイル名は、バージョンにより異なる場合があります。

下記の記載手順は、新規インストールです。更新インストールを実施する場合は、ポップアップ画面の「OK」または「次へ」ボタンをクリックし、インストールを完了させます。

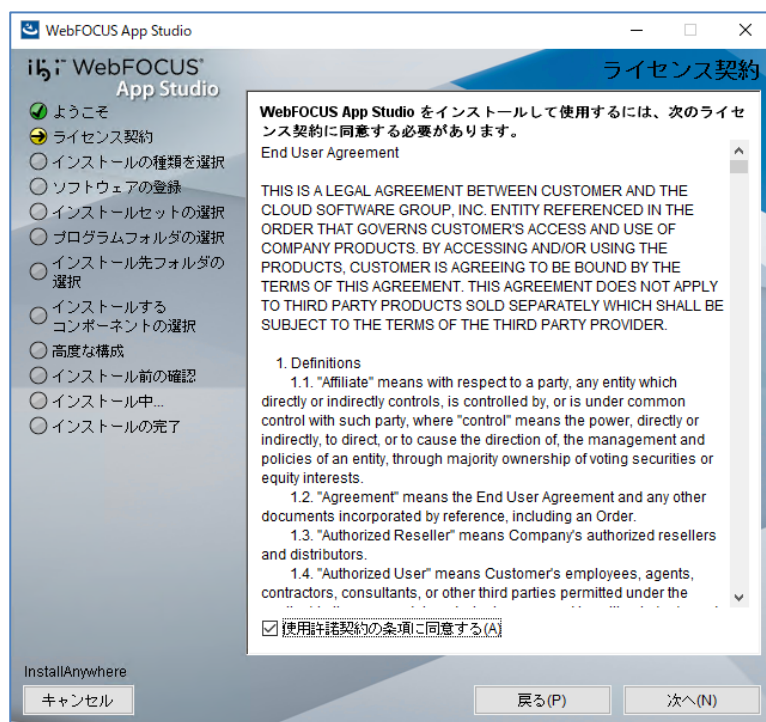
1. 言語を選択する画面が表示されますので、適切な言語を選択し、「OK」をクリックします。



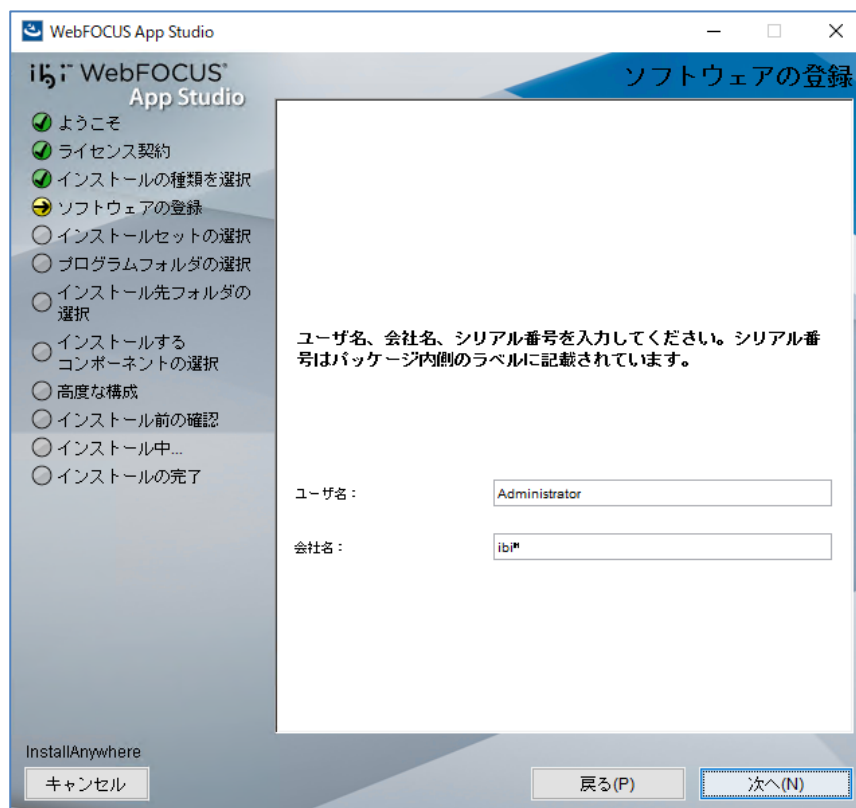
2. インストールの開始画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。



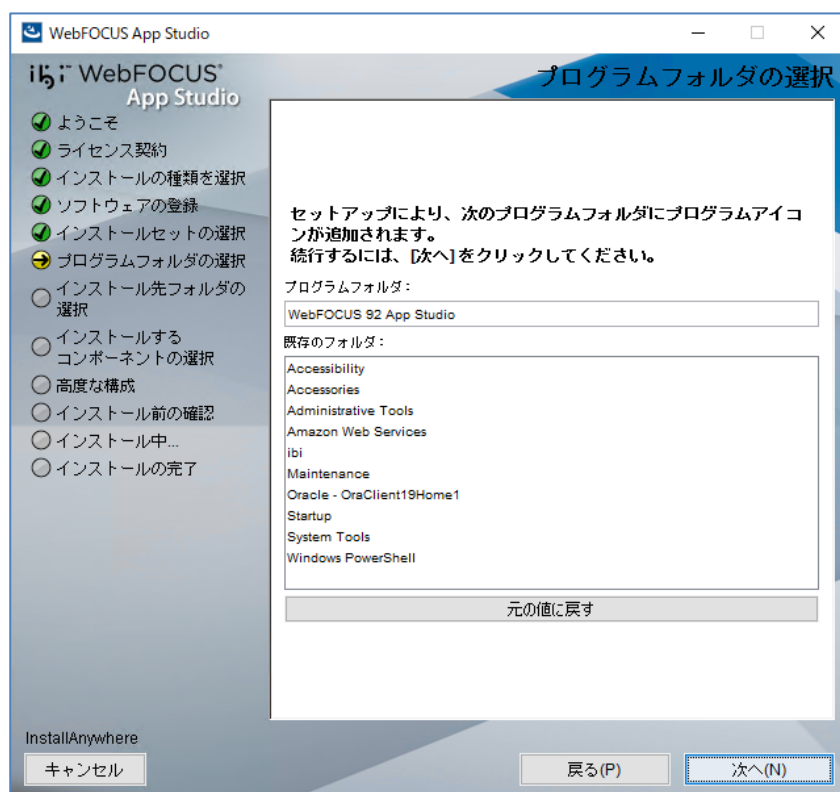
3. 「ライセンス契約」画面が開きますので、「使用許諾契約の条項に同意する」にチェックをし、「次へ」をクリックします。



4. 「ユーザ名」と「会社名」を入力し、「次へ」をクリックします。

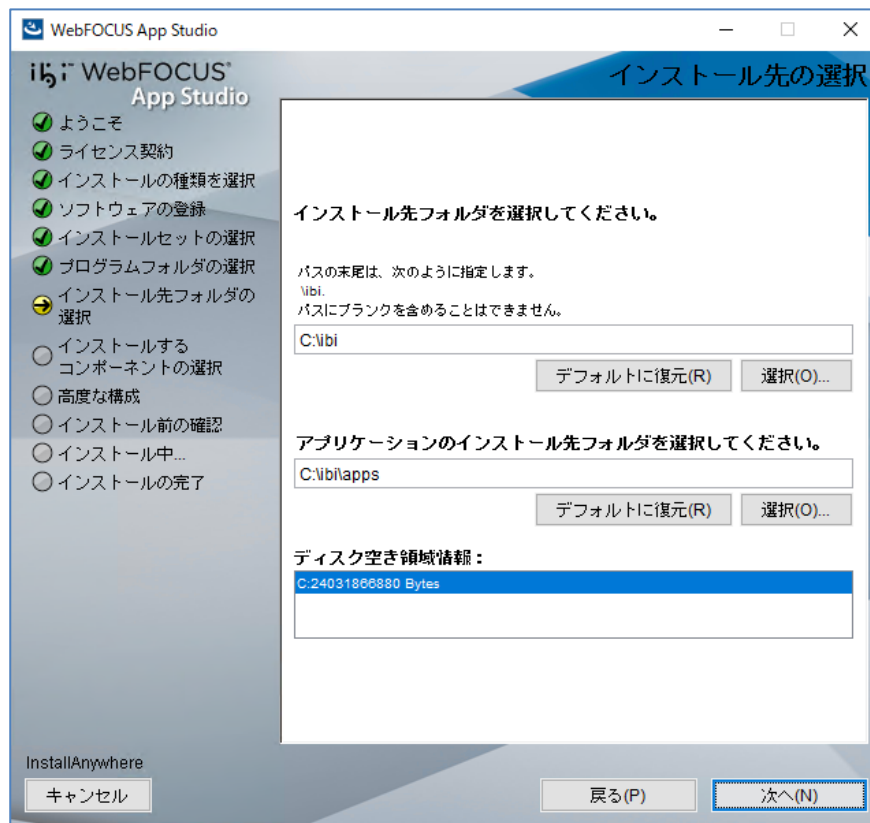


5. 「プログラムフォルダの選択」画面で、「次へ」をクリックします。



6. 「インストール先の選択」画面で下記を指定し、「次へ」をクリックします。

設定項目	チェック	設定値	備考
インストール先フォルダ		C:\ibi	※要件に合わせて変更可
アプリケーションの インストール先フォルダ		C:\ibi\apps	※要件に合わせて変更可



7. 「インストール前の確認」画面が開きますので、内容を確認し、「インストール」をクリックします。インストールが開始されます。
8. 「インストールの完了」画面が開きますので、「完了」をクリックします。

以上で WebFOCUS App Studio のインストールは終了です。

WebFOCUS App Studio のオンラインヘルプの設定

WebFOCUS9.2.0 で App Studio を新規インストールした際には、以下の手順に沿ってヘルプの構成を変更してください。

1. App Studio を起動し、「アプリケーションメニュー」をクリックし、「オプション」を選択します。
2. App Studio オプション画面で、「ヘルプの構成」を選択し、「ホスト」と「ヘルプコンテキストルート」を以下のように変更します。

ホスト :	docs.tibco.com
ヘルプコンテキストルート :	/appstudio/9200/doc/html/index.jsp

App Studio オプション

全般
レポート
HTML ページ
ドキュメント
環境
ヘルプの構成
出力ビューアの設定
ファイル拡張子

このページでは、App Studio の Web ベースのヘルプシステムを構成できます。以下の入力フィールドを使用して、ヘルプシステムが存在するマシンのプロトコル、ホスト、ポート、ヘルプコンテキストルートを指定してください。有効なプロトコルは HTTP と HTTPS、有効なポート番号の範囲は 80 から 99999 です。

プロトコル ホスト ポート

HTTPS docs.tibco.com 443

ヘルプコンテキストルート

/appstudio/9200/doc/html/index.jsp

OK キャンセル ヘルプ

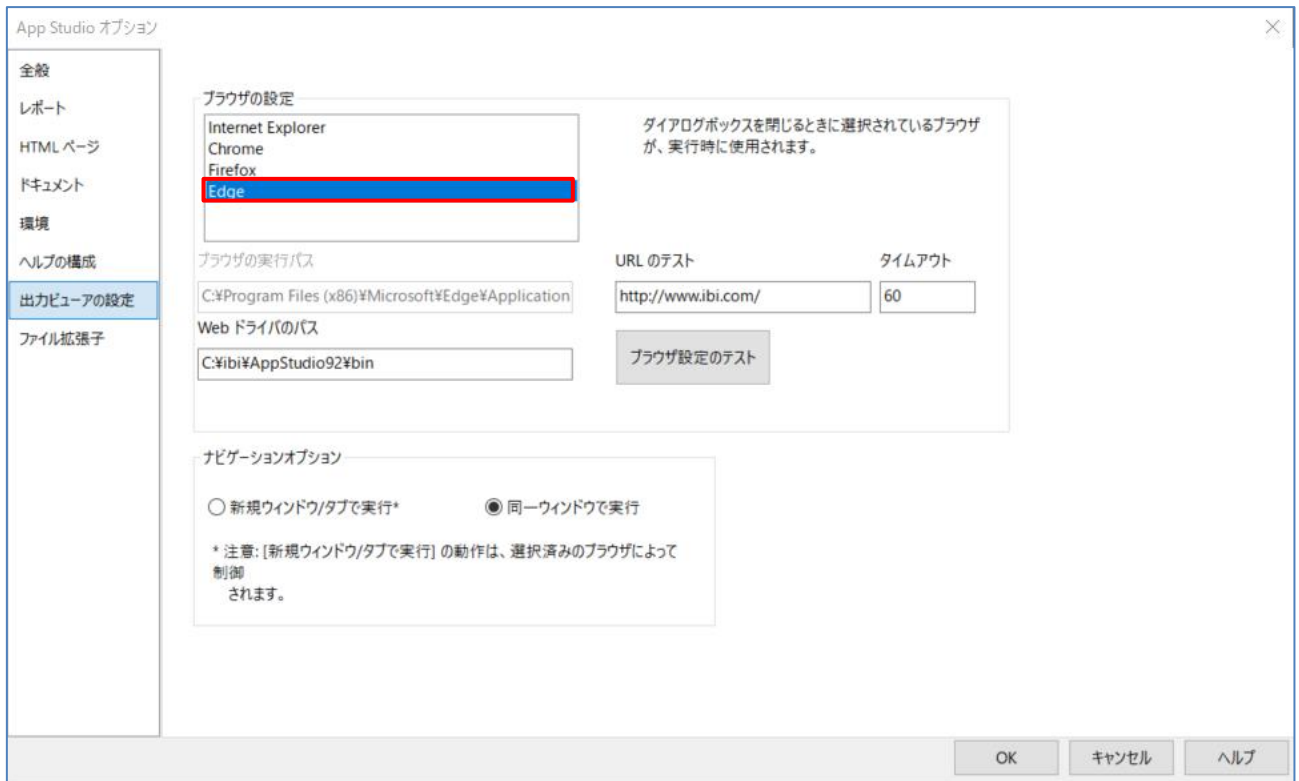
3. 変更後、「OK」をクリックします。

以上で WebFOCUS App Studio のオンラインヘルプの設定は終了です。

WebFOCUS App Studio の出力ビューア Edge の設定

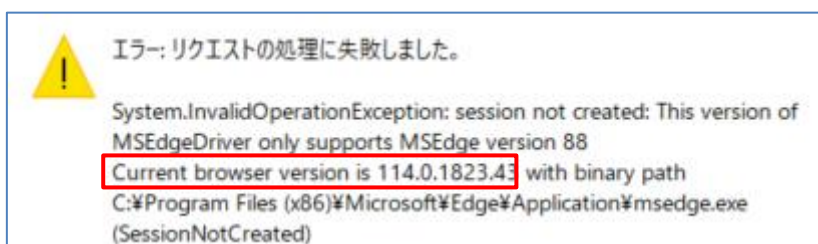
WebFOCUS App Studio の出力ビューアを Edge にする場合は、以下の手順に沿って設定を行います。

1. オプションメニュー「出力ビューアの設定」を Edge に設定します。



2. 任意のレポートを実行後、エラーメッセージの「Current browser version is…」以降に表示されるバージョンを確認します。

※以下の例ではバージョン「114.0.1823.43」になります。



3. 以下の Microsoft の URL から確認したバージョンの EdgeWeb ドライバー（msedgedriver.exe）をダウンロードします。

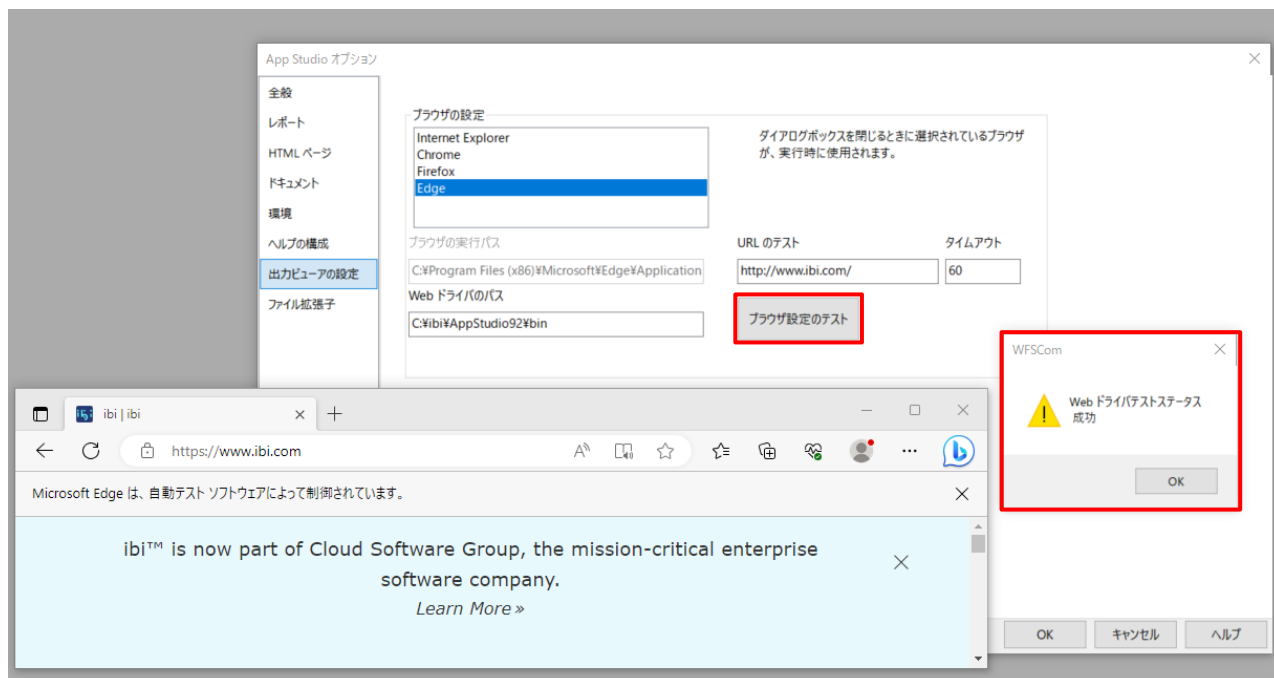
<https://developer.microsoft.com/ja-jp/microsoft-edge/tools/webdriver/>

4. 以下に配置されている msedgedriver.exe をダウンロードしたファイルと置き換えます。

【WebFOCUS AppStudio インストールディレクトリが C ドライブの場合】

C:\ibi\AppStudio92\bin

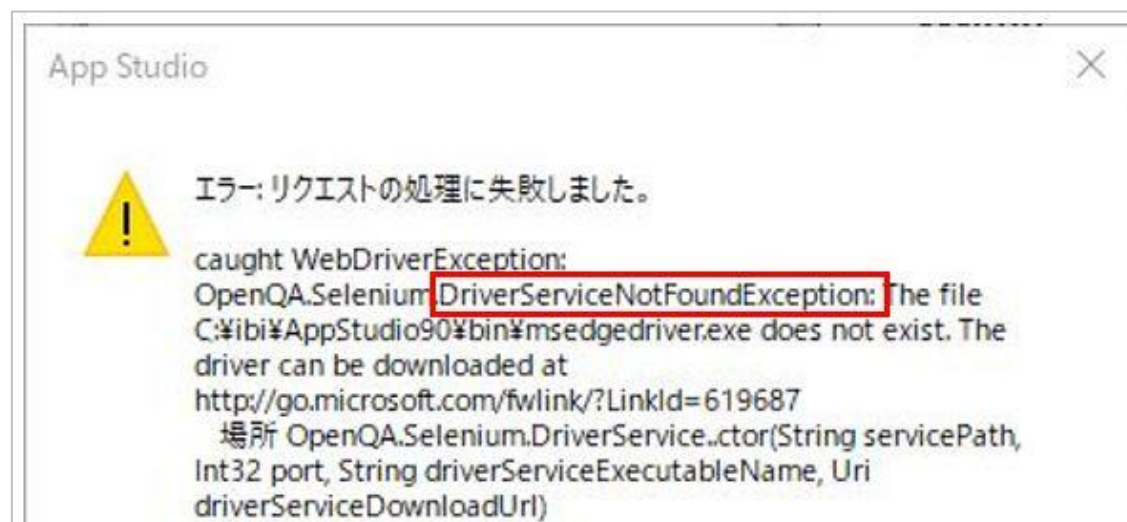
5. 「ブラウザ設定のテスト」ボタンをクリックし、「Web ドライバテストステータス成功」のメッセージが表示されることを確認します。



【注意】

手順 4 のフォルダに「msedgedriver.exe」が存在しない場合、以下のエラーが発生します。

該当のエラーが発生した場合、一旦手順 3、4 の要領で任意の EdgeWeb ドライバー（msedgedriver.exe）を設定し、再度、手順 2 以降の設定を行います。



以上で WebFOCUS App Studio の出力ビューア Edge の設定は終了です。

WebFOCUS に同梱される Java と Tomcat のバージョンについて

WebFOCUS 9.2.0	OpenJDK	1.8.0_362-b09 (8u362)
	Apache Tomcat	9.0.73

Java は、WebFOCUS 導入前にインストールする必要があります。

Tomcat は、新規導入時に、インストールにより自動構成されます。更新インストールにおいては Tomcat のバージョンアップはされませんので、必要に応じて当該バージョンの Tomcat をインストール、構成の上ご使用ください。

メンテナンスリリースの適用にあたって、Java を更新する場合は、ReportCaster Distribution Server、Tomcat、Derby、Solr の起動停止ファイルおよび設定ファイルを編集する必要があります。手順は、『Java 更新後の設定ファイル変更』をご参照ください。

WebFOCUS に使用する他社製コンポーネントについて

インストールプログラムには、Tomcat、Derby、Solr、インストールモジュールには、他社製コンポーネントが含まれています。導入後に発表された新たなセキュリティ上の脆弱性など一部の問題を解決するために、新しいバージョンへのアップグレード等別途対応が必要となる場合があります。他社製コンポーネントのバージョンについての詳細は、『WebFOCUS リリースノート Version9.2.0』および各ベンダーサイトをご確認ください。

WebFOCUS リリースノートについて

『WebFOCUS リリースノート Version9.2.0』には利用される環境によって必要な設定および注意点が記載されています。WebFOCUS をご利用の前に必ずご一読ください。

リリースノートは AWSC（アシストサポートサイト）からダウンロードしていただくことができます。

<https://wfp.ashisuto.co.jp/service/>

リリースノートをダウンロードするためには、WebFOCUS Knowledge base へのアカウント登録が必要です。アカウントをお持ちでない場合は、上記 URL 上に表示される「WebFOCUS Knowledge base とは？」のリンクからアカウントの申し込みを行ってください。

以上